

# 関東ニュービジネス協議会 冠講座「ベンチャービジネス」

文京学院大学 経営学部 2010年11月作成

文京学院大学では、関東ニュービジネス協議会(NBC)との包括提携に基づく共同事業推進の一環として、19年度後期から経営学部3年生を対象とした科目「起業と事業創造」(櫻澤教授)、20年度前期から経営学部2年生を対象とした科目「ベンチャービジネス」(櫻澤教授)において、NBCより特別講師をお招きしております。22年度前期科目「ベンチャービジネス」でも以下の5名の経営者の方を講師としてお招きしました。

## 第1回 4月26日 LMNホールディングス株式会社 代表取締役社長 兼 CEO 近藤 浩 氏

近藤社長は、2003年6月に有限会社メイションを設立。

結婚式の2次会幹事代行業「2次会くん」と、挙式と披露宴が16.8万円で行える「スマートウエディング」という、新しいビジネスモデルで、現在急成長を続けています。現在、社長ご自身は、35歳、社員平均年齢は26.6歳と若く活気にあふれた会社で、従業員数は50名です。同社の急速な成長は、NBC会員企業からも注目を集めています。(2009年4月現在)

講義内容は、起業のストーリーと、「2次会くん」や「スマ婚」のビジネスモデル、ユニークな福利厚生、そして今後の成長戦略についても語っていただきました。「楽しく継続できて、お客様に喜んでもらえる仕事」という信念やしつかりとした経営理念や社訓を構築・共有していくことの重要性を訴えながら、起業については、「周囲の35歳の方が体験できなかったようなことが出来た。良い事も大変な事も。自分も経営者の子供とかそういう特別なバックグラウンドはないので、皆さんが起業するというのもごく普通のことだと思う。ただ、起業しようか迷っているかと相談されると、迷っているなら起業するべきではないと答えている。迷いが確信に変わった次の日にでも動き出したら良い。」と力強く語っていただきました。



## 第2回 5月17日 ㈱メディカルプラットフォーム 代表取締役社長 東野 徹 氏

メディカルプラットフォームは2005年6月に設立。従業員数は20名。同社は、医師のみに限定したSNS「MVC-online」、医療機器メーカー対象の動画技術マッチングサイト「Do-Ma」などの

展開にユニークさを発揮しており、社会からの関心を集めています。講義内容は「アジアの医療インフラ構築を目指して」として、起業の経緯、事業の概要、ビジネスモデルについてご説明いただきました。

「起業において一番重要だと感じたのは、売上固定、費用変動のモデルを作ること。そうすれば論理的には絶対に倒産はない。」と、起業当初からのビジネスモデルの作りこみについては、櫻澤教授や学生からも質問が絶えませんでした。また、起業後半年は自身の給料がなく、給料が8万円の時に、ご結婚されたというエピソードから、奥様との馴れ初めについての質問が飛び出す場面も。「一流企業に就職したからハッピーということではない。苦勞をして就職したからこそ、将来的な成長が望めるはず。」と東野社長からのメッセージに学生は熱心に聞き入っていました。



## 第3回 5月31日 ㈱シェイプアップハウス 代表取締役 下村朱美 氏

シェイプアップハウスは、1984年に設立。エステティックサロン経営の最前線であるサロン営業

部からエステティックに関する本格的な教育機関の運営などを手がけるスクール事務局、また、1986年に営業を開始した日本で最初の男性専用エステティックサロン「ダンディハウス」など、様々な事業を展開しています。下村社長は我が国を代表する女性起業家の一人です。

講義内容は、起業の経緯や、事業の成長拡大と安定や、優位性、さらには世界的展開を視野に入れた今後の動向について、エステティック業界の現状を説明していただきながら、お話をいただきました。

「起業した当初はやはりお金の苦勞があったが、起業してからは人で苦勞した。就職したことがないから、どうやって人を使ったらいいのか、上司とはどんなものが全く分からなかった」など、起業当時のエピソードが満載で、ご自身は池坊短大のご出身で、経営の勉強をされたことがないという下村社長ですが、「経営の勉強を若いうちからしている皆さんは、私より起業に向いていると思う。」と話されつつも、顧客のニーズに応えながら、事業を拡大・成長させていったというお話はとても理論付けられていて、学生達は熱心に聞き入っていました。



## 第4回 6月14日 ㈱山之内製作所 代表取締役 山内慶次郎 氏

山之内製作所は、昭和40年創業より、半導体機器、電機製品、バルブなどの製品を経て、現在では防衛特機部品、医療機器、宇宙開発機器など、精密部品などを手がけ、試作から中ロットまでの精密部品製造を得意とし、航空・宇宙機器、防衛機器、医療機器、原子力機器などの精密部品の加工から組立までを行っています。山内慶次郎氏は同社の二代目の社長で、現在は、神奈川県内の航空・宇宙産業の事業者を組織化し、「まんでんプロジェクト」というコンソーシアムも展開中です。

講義内容は、航空機宇宙産業参入の展開として、山之内製作所の技術革新、戦略についてお話をいただきました。「先代が人のやらない仕事をこつこつとやる人だった。その精神がまだ宿っていて、他社がやらない嫌がる難しい仕事をやっている。その結果、最先端の技術力を有する会社になった」として、同軸5軸加工という最先端の技術で作られた、気象衛星ひまわりの部品などもお持ちいただき、学生は手にとって興味深く覗き込んでいました。同社は、世界とパートナーシップを組める品質管理、認定取得についても取り組まれており、非常に参入障壁の高い航空産業への取り組みなどについても詳細に語っていただきました。また、「何事も一番最初にやるということはリスクも高い大変だけれど、諦めずに頑張してほしい」というエールも送っていただきました。



## 第5回 6月28日 ㈱虎の穴 代表取締役 吉田博高 氏

吉田氏は、「素晴らしい漫画文化を全世界に、そして未来に羽ばたかせる。」という理念のもと、インディーズコミック市場

のリーダー的存在として活躍されており、秋葉原のアニメ文化の仕掛人としても良く知られています。現在では、7000名を超える作家や造形・CGのクリエイターが創作した作品を、お客様にダイレクトに販売することのできる画期的な自社流通網を構築し、さらに商業誌や玩具(キャラクターグッズ)なども複合して販売することによって、多様なニーズに対応しています。

講義内容は、同人誌などのサブカルチャーについて、参考映像などをお持ちいただき、業界の動きについてご説明いただき、起業の経緯や、企業の成長についても詳しくご説明いただきました。

起業については、「好きなことで起業しよう」、「好きなことの近くに飛び込んでいこう」、「開業資金は1/2くらいは自分で貯めた方がいい。そうでないと頑張りがきかない」、「初期投資は少なければ少ない方が成功確率が上がる。その為にはいろんな工夫をすればいい」など、実際に商品を陳列する棚をご自身で手作りされたというエピソードなども語っていただきました。

吉田社長は33歳から大学に通われ、大学院まで計7年間勉強してきたばかりということもあり、学生には「大学って、物事を徹底して24時間取り組むにはとってもいい時期。是非、色々な方向に向かっていってほしい」とエールが送られました。

